

広がるSAKE

世界市場に挑む



●50

県産日本酒の輸出量は2012年に1375キロと、過去10年で6倍に増えた。一方、国内向け出荷量も12年に約4万4千キロと16年ぶりに増加に転じ、今年も8月までの累計が前年同期比約3%増で推移する(いずれも県酒造組合まとめ)。

県産酒ブームの陰りや観光の低迷による右肩下がりから脱し、ようやく明るさが見え始めた本県日本酒業界。蔵元を軸に、酒米を育てる農家から小売り・飲食店までが再び輝きを取り戻せるかは、輸出も一つの鍵を握っている。

輸出の効果 国内にも

尾畑酒造(佐渡市)は13年9月期で輸出量が生産量の7%に達し、前年から倍増した。北米向けが好調なほか、東南アジアも伸びているためだ。平島健社長(49)は「まいた種が少しずつ実ってきた」と話す。生産量自体も近年は微増が続く。

輸出を始めたのは10年ほど前だ。航空大手エールフランス

高評価獲得 取引に好循環

スの機内酒に売り込んだり、米ニューヨークの酒販業者を開拓したりして海外でも知名度を上げ、輸出先は10カ国に増えた。

と説明する。料理との組み合わせ方や酒器など、酒文化を総合的に伝える取り組みを強化している。

さらに、海外での日本酒人気を国内の消費増に結びつける「黒船」効果も狙う。「海外ではフレンチやイタリアンの店に日本酒が普通に置いてある。国内にも『この料理な

高千代酒造(南魚沼市)も海外での高評価が国内に波及する好循環を生んでいる。今年5月、国際味覚審査機構(ベールギー)の審査で3年連続で



日本酒と料理の組み合わせ方などを学ぶ、尾畑酒造取引先の輸入会社や卸会社のスタッフら＝7月、米ニューヨークのレストラン

最高評価の「三ツ星」を獲得し、県内企業で初めてクリスタル賞を贈られた。生産量が少ない地元産酒米「一本づ」を全量使い、地元の名峰から名付けた代表銘柄「巻機 純米吟醸」を出品し、欧州のソムリエ約60人から高く評価された。

高橋マサエ社長(74)は「最初の年からいきなり三ツ星でびっくり。これをきっかけに多くの人に巻機山を見に来てほしい」と話す。

「三ツ星」効果で全国から問い合わせが相次ぎ、同社担当者が足を運んで30件ほどの新規取引が始まった。酒米をやりくりして同銘柄の生産量を5割増やしたものの、スイスなど海外からの

還元

たがた
地酒考